



モジュールタイプ調節計 SRJ

温調入力モジュール

設置・配線

取扱説明書

J-TI

IMS01X06-J1

All Rights Reserved, Copyright © 2022, RKC INSTRUMENT INC.

本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解された上でご使用ください。なお、本書は大切に保管し、必要なときにご活用ください。
本書は J-TI の設置・配線、各部の名称、スイッチの設定および仕様について説明したものです。

詳細な機能の説明、データマップなどは、必要に応じて、別冊の **SRJ 取扱説明書 (IMS01X07-J□)** を参照してください。
別冊の説明書は、当社ホームページからダウンロードできます。
ホームページアドレス: <https://www.rkcinst.co.jp/download-center/>

■ 付属品の確認

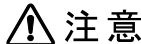
J-TI 設置・配線取扱説明書 (本書).....	1
Ti 部コネクタ [Ti 部コネクタ付きの場合に付属 (J-TI に取り付けて出荷)] J-TI-A の場合	16
J-TI-B、J-TI-C の場合	8

■ 安全上の注意



警告

- 本製品の故障や異常によるシステムの重大な事故を防ぐため、外部に適切な保護回路を設置してください。
- すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 本製品は、記載された仕様の範囲外で使用しないでください。火災・故障の原因になります。
- 引火性・爆発性ガスのあるところでは使用しないでください。
- 電源端子など高電圧部に触らないでください。感電の恐れがあります。
- 本製品の分解、修理、および改造はしないでください。感電・火災・故障の原因になります。



注意

- 本製品は、産業機械、工作機械、計測機器に使用されることを意図しています。(原力設備および人命にかかわる医療機器などには使用しないでください。)
- 本製品はクラス A 機器です。本製品は家庭内環境において、電波障害を起こすことがあります。その場合は使用者が十分な対策を行ってください。
- 本製品におけるすべての入出力信号ラインを、屋内で長さ 30 m 以上で配線する場合は、サージ防止のため適切なサージ抑制回路を設置してください。また、屋外に配線する場合は、配線の長さにかかわらず適切なサージ抑制回路を設置してください。
- 本製品は、計装パネルに設置して使用することを前提に製作されていますので、使用者が電源端子等の高電圧部に近づけないような処置を最終製品側で行ってください。
- 本書に記載されている注意事項を必ず守ってください。注意事項を守らずに使用すると、重大な傷害や事故が起こる可能性があります。また、本書の指示に従わない場合、本製品に備えられている保護が損なわれる恐れがあります。
- 配線を行うときは、各地域の規則に準拠してください。
- 本製品の故障による損傷を防ぐため、本製品に接続される電源ラインや高電流容量の入出力ラインに対しては、十分な遮断容量のある適切な過電流保護デバイス (ヒューズやサーキットブレーカーなど) によって回路保護を行ってください。
- 本製品の故障によって、制御不能になったり、警報出力がなくなったりすることで、本製品に接続されている機器に危険を及ぼす恐れがあります。本製品が故障しても安全に使用できるように、最終製品に対して適切な対策を行ってください。
- 製品の中に金属片や導線の切りくずを入れないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 放熱を妨げないよう、本製品の周辺をふさがないでご使用ください。また通風孔はふさがないでください。
- 不使用端子には何も接続しないでください。
- クリーニングは必ず電源を OFF にしてから行ってください。
- 本製品の汚れは柔らかい布で乾拭きしてください。なお、シンナ類は使用しないでください。変形、変色の恐れがあります。
- モジュールコネクタは電話回線に接続しないでください。

ご使用の前に

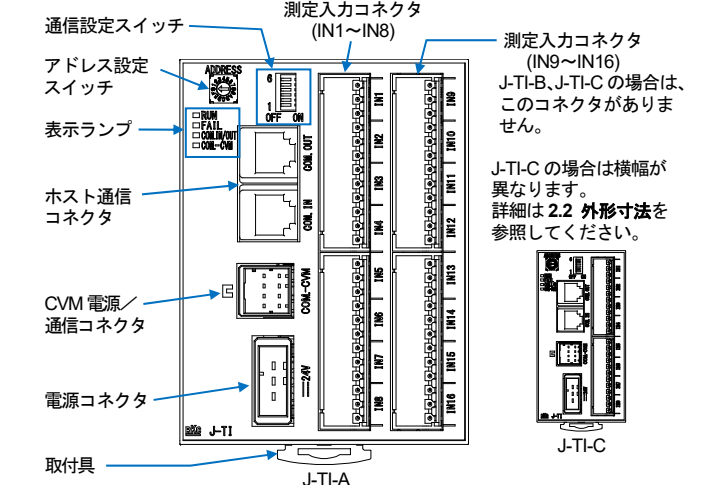
- 本書では、読者が電気関係、制御関係、コンピュータ関係および通信関係などの基礎知識を持っていることを前提としています。
- 本書で使用している図や数値例、画面例は、本書を理解しやすいように記載したものであり、その結果の動作を保証するものではありません。
- 以下に示す損害をユーザーや第三者が被っても、当社は一切の責任を負いません。
 - 本製品を使用した結果の影響による損害
 - 当社において予測不可能な本製品の欠陥による損害
 - 本製品の模倣品を使用した結果による損害
 - その他、すべての間接的損害
- 本製品を継続かつ安全にご使用いただくために、定期的なメンテナンスが必要です。本製品の搭載部品には寿命があるものや経年変化するものがあります。
- 本書の記載内容は、お断りなく変更することがあります。本書の内容については、万全を期しておりますが、万が一不審な点やお気づきの点がありましたら、当社までご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。
- 本製品で使用されている記号には以下のものがあります。
 - ====: 直流
 - △: 安全上の注意
- オペレータおよび機器を保護するため、取扱説明書の参照が必要な箇所にこの記号が付いています。ご使用にあたっては、本書の注意事項を必ずお読みください。

輸出貿易管理令に関するご注意

大量破壊兵器等 (軍事用途・軍事設備等) で使用されることがない様、最終用途や最終客先を調査してください。なお、再販売についても不正に輸出されないよう、十分に注意してください。

1. 各部の名称

J-TI はヒータコントロールシステムにおいて温度入力と制御を行うモジュールです。通信で SSR ユニットの出力を制御することができます。

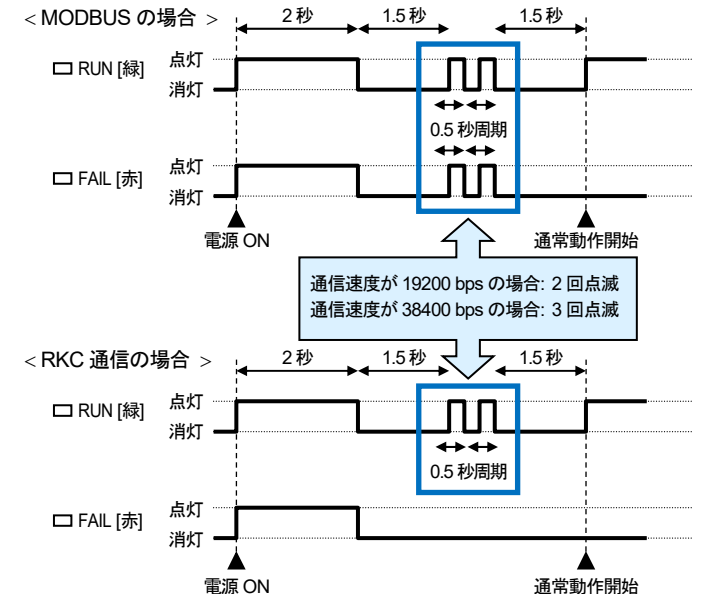


コネクタの説明は 3.2 コネクタ構成を参照してください。

■ 表示ランプ

J-TI-A、J-TI-B	動作状態 (RUN) [緑]	正常動作中に点灯します。
□ RUN	フェイル (FAIL) [赤]	計器異常時に点灯します。
□ FAIL	ホスト通信状態 (COM.IN/OUT または COM.I/O) [橙]	ホスト通信データ送受信中に点滅します。
□ COM.IN/OUT	CVM 通信状態 (COM.-CVM または COM-CVM) [橙]	J-CVM 通信データ送受信中に点滅します。
□ COM-CVM		

本機器は電源 ON 直後に、動作状態 (RUN) [緑] ランプとフェイル (FAIL) [赤] ランプを使用して、通信プロトコルと通信速度を表示します。



通信プロトコルと通信速度はホスト通信で設定します。ホスト通信については、**SRJ 取扱説明書 (IMS01X07-J□)** を参照してください。

■ 設定スイッチ

6	内部通信およびホスト通信の終端抵抗、ホスト通信/内部通信切換を設定します。
1	内部通信の終端抵抗
OFF	終端抵抗なし (内部通信で J-TI が両端以外の場合) [出荷値]
ON	終端抵抗あり (内部通信で J-TI が両端の場合)
2	ホスト通信の終端抵抗
OFF	終端抵抗なし (ホスト通信で J-TI が終端 * 以外の場合) [出荷値]
ON	終端抵抗あり (ホスト通信で J-TI が終端 * の場合)

* ホストコンピュータから最も離れた位置 (最終端) にある J-TI

3	4	5	6	ホスト通信/内部通信切換
OFF	OFF	ON	ON	内部通信 (J-TI と接続するスレーブ J-TI の場合) [出荷値]
ON	ON	OFF	OFF	ホスト通信 (ホストコンピュータと接続するマスター J-TI の場合)
上記以外の設定				設定しないでください。

● アドレス設定スイッチ

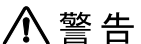
複数の J-TI を同一ライン上に接続して使用する場合、通信アドレスが重複しないように設定してください。通信アドレスが重複すると機器故障や誤動作の原因になります。

スイッチで設定したデータは、電源を再度 ON にすることで有効になります。

ADDRESS

通信アドレスを設定します。
設定範囲: 0~F (10 進数: 0~15) 出荷値: 0
ホストコンピュータ 1 台に対して J-TI マスターが 4 台まで接続できます。また、J-TI マスター 1 台に対して J-TI スレーブが 3 台まで接続できますので、通信アドレスは 0~3、4~7、8~B、C~F のいずれかの組み合わせで設定してください。「0、4、8、C」がマスターとなります。
J-CVM と接続する J-TI は「0、4、8、C」(マスターとなるアドレス) のいずれかに設定してください。
MODBUS 通信の場合は、アドレス設定スイッチの設定値に「1」を加えた値が、実際のプログラムで使用される通信アドレスです。

2. 取付



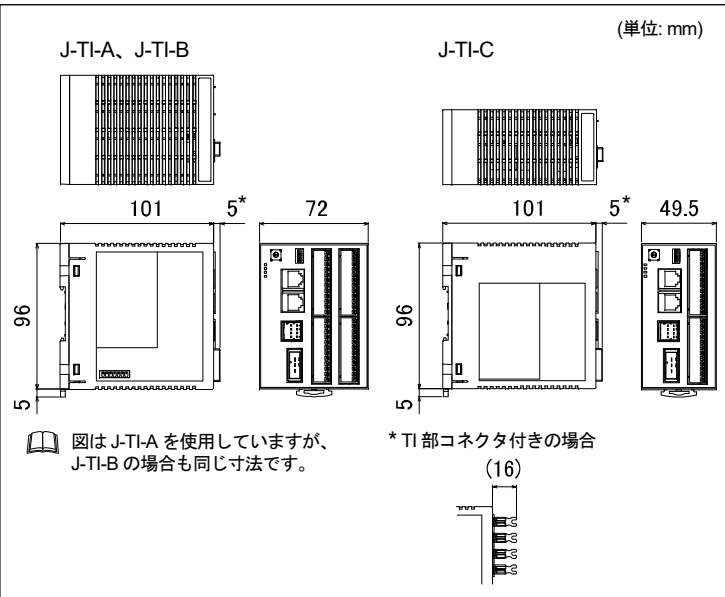
警告

感電防止および機器故障防止のため、必ず電源を OFF にしてから本機器の取り付け、取り外しを行ってください。

2.1 取付上の注意

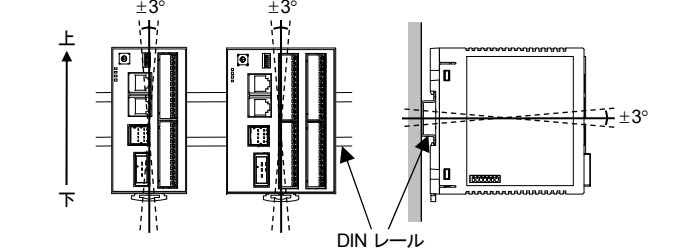
- (1) 本機器は、つぎの環境仕様で使用されることを意図しています。(IEC 61010-1 [汚染度 2])
- (2) 以下の周囲温度、周囲湿度、設置環境条件の範囲内で使用してください。
 - 許容周囲温度: -10~+55 °C
 - 許容周囲湿度: 5~95 %RH (絶対湿度: MAX.W.C 29 g/m³ dry air at 101.3 kPa)
 - 設置環境条件: 屋内使用、高度 2000 m まで
- (3) 特に、つぎのような場所への取り付けは避けてください。
 - 温度変化が急激で結露するような場所
 - 腐食性ガス、可燃性ガスが発生する場所
 - 本体に直接振動、衝撃が伝わるような場所
 - 水、油、薬品、蒸気、湯気のかかる場所
 - 塵埃、塩分、鉄分の多い場所
 - 誘導障害が大きく、静電気、磁気、ノイズが発生しやすい場所
 - 冷暖房の空気が直接あたる場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 輻射熱などによる熱蓄積の生じるような場所
- (4) 取り付けを行う場合は、つぎのことを考慮してください。
 - 配線、保守、耐環境を考慮し、機器の上下は 25 mm 以上のスペースを確保してください。
 - 発熱量の大きい機器 (ヒータ、トランス、半導体操作器、大容量の抵抗) の真上に取り付けるのは避けてください。
 - 周囲温度が 55 °C 以上になるときは、強制ファンやクーラーなどで冷却してください。ただし、冷却した空気が本機器に直接当たらないようにしてください。
 - 耐ノイズ性能や安全性を向上させるため、高圧機器、動力線、動力機器からできるだけ離れて取り付けてください。
 - 高圧機器: 同じ盤内での取り付けはしないでください。
 - 動力線: 200 mm 以上離して取り付けてください。
 - 動力機器: できるだけ離して取り付けてください。
- (5) 本機器の近くで、かつすぐに操作できる場所に、スイッチやサーキットブレーカーを設置してください。また、それらは本機器用の遮断デバイスであることを明示してください。

2.2 外形寸法



取付奥行き: 接続ケーブルの配線スペース (ケーブルの曲げ寸法など) を考慮して、取り付けてください。

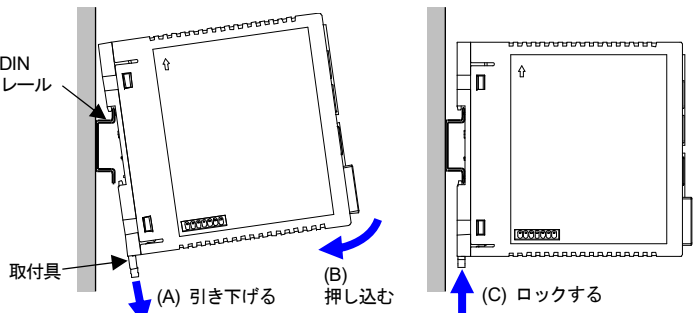
J-TI はつぎの方向で取り付けてください。(基準面 ±3°)



2.3 DIN レールへの取り付けと取り外し

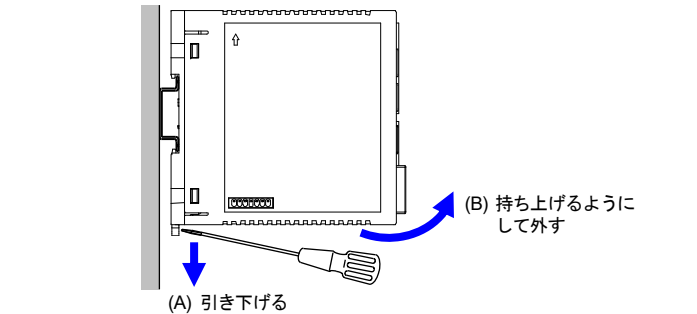
■ 取付方法

1. 本機器下部の取付具を引き下げ (A)、裏面のツメを DIN レールの上側に引っかけてから、矢印の方向に押し込みます (B)。
2. 取付具を押し込んで、DIN レールから外れないようにロックします (C)。



■ 取り外し方法

マイナスドライバーなどで取付具を引き下げた後 (A)、下側から機器を持ち上げるようにして外します (B)。



3. 配線



警告

感電防止および機器故障防止のため、すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。また、本機器への通電前には配線が正しいことを必ず確認してください。

3.1 配線上の注意

- 熱電対入力の場合は、所定の補償導線を使用してください。
- 測温抵抗体入力の場合は、リード線抵抗が小さく、3 線間 (3 線式) の抵抗差のない線材を使用してください。
- 入力信号線はノイズ誘導の影響を避けるため、計器電源線、動力電源線、負荷線から離して配線してください。
- 計器電源は、動力電源からのノイズ影響を受けないように配線してください。ノイズの影響を受けやすい場合には、ノイズフィルタの使用を推奨します。
 - ー 線材はより合わせてください。より合わせのピッチが短いほどノイズに対して効果的です。
 - ー ノイズフィルタは必ず接地されているパネル等に取り付け、ノイズフィルタ出力側と電源端子の配線は最短で行ってください。
 - ー ノイズフィルタ出力側の配線にヒューズ、スイッチなどを取り付けると、フィルタとしての効果が悪くなります。より合わせのピッチが短いほどノイズに対して効果的です。
- 電源供給線は、電圧降下の少ない電線をツイストしたうえで使用してください。
- 24 V 電源仕様の製品には、電源に SELV 回路 (IEC 60950-1) からの電源を供給してください。
- 最終用途機器には、適切な電源を供給してください。
 - ー 電源はエネルギー制限回路に適合 (最大電流 5.04 A) するもの

3.2 コネクタ構成

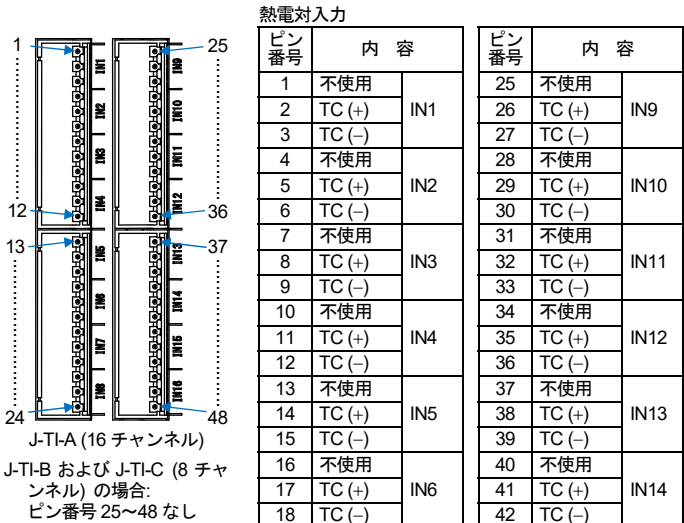
別売りの接続コネクタおよびケーブルが必要な場合は、当社営業所または代理店までお問い合わせください。

■ 測定入力コネクタ (IN1～IN16)

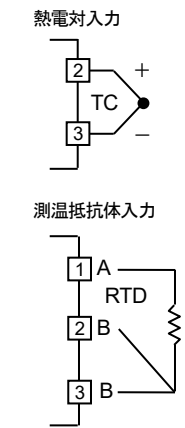
測定入力を接続するためのコネクタです。

推奨フィメールコネクタ: 2091-1103/002-000 (WAGO 製)

メールヘッダ (J-TI 側): 2091-1432 (WAGO 製)



● 配線例 (IN1 の場合)



TI 部コネクタ付きの場合は、つぎのコネクタが出荷時に取り付けられています。

フィメールコネクタ: 2091-1103/002-000 (WAGO 製)
スライド式コネクタリソースおよび
グリッププレート付き
ケーシクランプ®S

● 接続方法:
● 適合電線断面積:
単線: 0.2～1.5 mm²
可とうより線: 0.2～1.5 mm²
(絶縁カラー付きフェールル)
0.25～0.75 mm²
(絶縁カラーなしフェールル)
0.25～1.5 mm²
(絶縁カラーなしフェールル)

● AWG:
24～14
14 は被覆外径によっては使用できません。

● 最大被覆外径:
φ2.8 mm
● むき長さ:
8～9 mm
● 操作工具:
刃先 2.5 × 0.4 mm
(WAGO 製 210-719 ドライバ)
工具は一般の小さいサイズのドライバでも代用できます。

● 線材引っ張り強度: 0.75 N 以上
● ひげ線 (線の露出) がないように配線してください。

■ 電源コネクタ

計器電源を接続するためのコネクタです。

推奨リセ・ハウジング: D-3000 シリーズ 3P (X タイプ) 1-178288-3 (タイコエレクトロニクス製)

タブ・ヘッダー (J-TI 側): D-3000 シリーズ 3P 水平 (X タイプ) 1-178293-3 (タイコエレクトロニクス製)



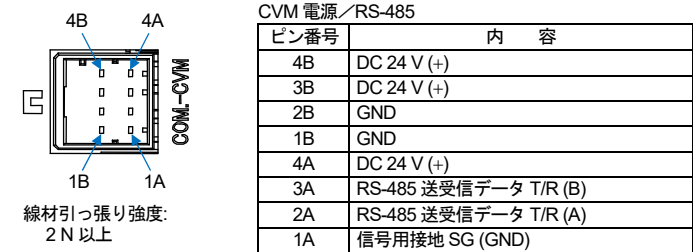
電源の接続には、当社製電源ケーブル W-CF-P01-AC (別売り) が使用できます。
ケーブル型名: W-CF-P01-AC-□□□□□□ (当社製、別売り) [□□□□□□: ケーブル長]

■ CVM 電源／通信コネクタ (COM.-CVM)

J-CVM と接続するためのコネクタです。

推奨リセ・ハウジング: D-2100 シリーズ 8P (X タイプ) 1-1318119-4 (タイコエレクトロニクス製)

タブ・ヘッダー (J-TI 側): D-2100 シリーズ 8P 水平 (X タイプ) 1376009-1 (タイコエレクトロニクス製)



J-CVM の接続にはシールド線を使用し、シールド線は確実に接地してください。

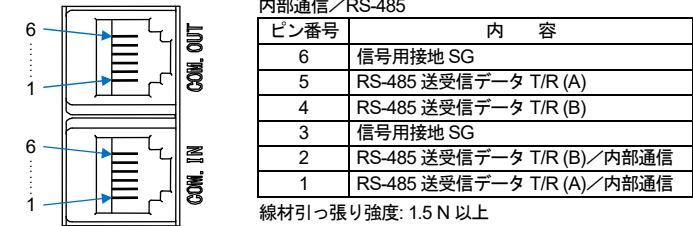
J-TI と J-CVM の接続には、当社製 J-CVM 接続ケーブル W-CF-N01-AA (別売り) が使用できます。
ケーブル型名: W-CF-N01-AA-□□□□□□ (当社製、別売り) [□□□□□□: ケーブル長]

J-CVM との接続方法は、**J-CVM 設置配線取扱説明書 (IMS01X02-JC)** を参照してください。

■ ホスト通信コネクタ (COM. IN, COM. OUT)

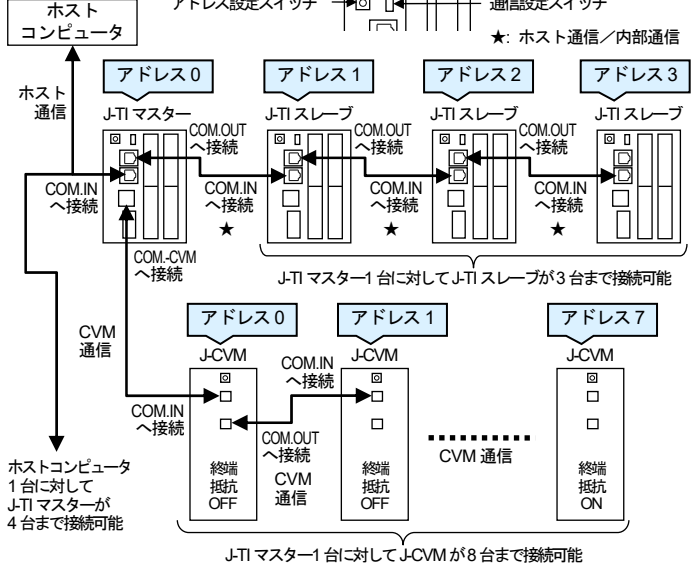
ホストコンピュータと接続するためのコネクタです。

推奨コネクタ: モジュラーコネクタ 6P タイプ、TM4P-66P (ヒロセ電機製)



J-TI とホストコンピュータの接続には、当社製通信ケーブル W-CF-C01-AY3 (別売り) が使用できます。また、J-TI と J-TI の接続には、当社製通信ケーブル W-BF-02* (別売り) が使用できます。* ケーブルのシールド線は、J-TI の SG (6 番ピン) に接続されます。
ケーブル型名 W-CF-C01-AY3-□□□□□□ (当社製、別売り) [□□□□□□: ケーブル長]
W-BF-02-□□□□□□ (当社製、別売り) [□□□□□□: ケーブル長]

● 接続例



上記接続例の場合、J-TI の通信設定スイッチはつぎのように設定します。

スイッチ No.	内 容	アドレス 0	アドレス 1	アドレス 2	アドレス 3
1	内部通信の終端抵抗	ON	OFF	OFF	ON
2	ホスト通信の終端抵抗	OFF	OFF	OFF	ON
3, 4	ホスト通信	ON	OFF	OFF	OFF
5, 6	内部通信	OFF	ON	ON	ON

4. 仕 様

■ 入 力 測定入力 (PV)

入力点数:

J-TI-A: 16 点 (入力間絶縁)

J-TI-B、J-TI-C: 8 点 (入力間絶縁)

熱電対入力 K (JIS-C1602-1995):
0.0～400.0℃、0.0～800.0℃、0.0～1300.0℃

熱電対入力 R (JIS-C1602-1995):
0.0～1700.0℃

測温抵抗体入力 Pt100 (JIS-C1604-1997)、3 線式:
0.0～400.0℃、0.0～600.0℃、0.0～800.0℃

0.25 秒、1 秒 (切換式)

約 0.1 μV/Ω (熱電対の種類により換算) [熱電対入力]

スパンの約 0.01 %/Ω (1 線あたり最大 10 Ω 以内) [測温抵抗体入力]

1 MΩ 以上 [熱電対入力]

190～270 μA [測温抵抗体入力]

アップスケール [熱電対入力、測温抵抗体入力]

ダウンスケール [測温抵抗体入力]

入力異常判断点上限、入力異常判断点下限

入力レンジ下限～入力レンジ上限

入力異常時動作上限、入力異常時動作下限

制御続行または入力異常時の操作出力 (選択可能)

入力異常時の操作出力値

–5.0～+105.0 %

PV バイアス: –入カスパン～+入カスパン

PV デジタルフィルタ (一次遅れ):

0～100 秒 (0: フィルタ OFF)

測定入力補正:

予熱・安定時間:

DC –2.3～+2.3 V

60 分以上

■ 制 御

制御種類:

ブリリアント II PID 制御 (逆動作／正動作)

付加機能:

オーバershoot抑制機能: リセットフィードバック (RFB) 方式
オートチューニング (AT)、マニュアル制御

■ 主な機能

イベント機能

イベント点数:

イベント種類:

2 点／チャンネル

上限偏差、下限偏差、上下限偏差、範囲内偏差、

上限入力値、下限入力値

上限偏差、下限偏差: –入カスパン～+入カスパン

上下限偏差、範囲内偏差: 0.0～入カスパン

上限入力値、下限入力値: 測定範囲と同じ

0.0～入カスパン

待機動作、イベントタイマ

制御ループ断線警報 (LBA)

制御ループ断線警報 (LBA) 時間:

1～7200 秒

LBA デッドバンド (LBD):

0.0～入カスパン

ホスト通信

インターフェース:

EIA 規格 RS-485 準拠

同期方式:

調歩同期式

接続方式:

2 線式半二重マルチドロップ接続

プロトコル:

RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5、B1 準拠)

MODBUS-RTU

最大接続数:

J-TI マスター: 4 台

(ホストコンピュータ 1 台に対して J-TI マスター 4 台)

J-TI スレーブ: 12 台 (J-TI マスター 1 台に対して J-TI スレーブ 3 台)

CVM 通信

インターフェース:

EIA 規格 RS-485 準拠

同期方式:

調歩同期式

通信速度:

38400 bps

接続方式:

2 線式半二重マルチドロップ接続

プロトコル:

専用通信

最大接続数:

8 台 (J-TI マスター 1 台に対して J-CVM が 8 台)

■ 自己診断機能

自己診断項目	異常時の通信	異常時の表示	CVM への通信状態
データバックアップエラー	エラーコード 1	FAIL [赤] ランプ: 点灯 RUN [緑] ランプ: 点灯	出力値 0% (自己診断エラー)
CVM アドレス重複設定エラー	エラーコード 2	FAIL [赤] ランプ: 点灯 RUN [緑] ランプ: 点灯	制御継続
モジュール構成異常	エラーコード 4		
調整データ異常	エラーコード 8	FAIL [赤] ランプ: 点灯 RUN [緑] ランプ: 点灯	出力値 0% (自己診断エラー)
A/D 変換値異常	エラーコード 16		
ウォッチドッグタイマ	通信停止	FAIL [赤] ランプ: 点灯 RUN [緑] ランプ: 消灯 FAIL [赤] ランプ: 消灯 RUN [緑] ランプ: 消灯	通信停止 (計器異常)
電源電圧監視			

対処方法: 一度、電源を OFF にしてください。電源を再度 ON (CVM アドレス重複設定エラーの場合は J-CVM のアドレスを正しく設定してから再度 ON) にした後もエラー状態になる場合は、そのエラー項目を当社営業所または代理店までご連絡ください。

■ 一般仕様

電源電圧: DC 20.4～26.4 V [電源電圧変動含む] (定格 DC 24 V)

消費電流 (最大負荷時): J-TI 単体: 最大 160 mA (DC 24 V 時)

突入電流: 20 A 以下

J-TI に J-CVM (8 台) 接続時: 最大 5040 mA (DC 24 V 時)

絶縁抵抗:

	①	②	③	④
① 接 地				
② 電源、CVM 通信	DC 500 V 20 MΩ 以上	DC 500 V 20 MΩ 以上	DC 500 V 20 MΩ 以上	
③ 測定入力				
④ 通 信				

接地は、DIN レールとなります。

耐電圧:

時間: 1 分間	①	②	③	④
① 接 地				
② 電源、CVM 通信	AC 1500 V			
③ 測定入力	AC 1000 V	AC 1500 V	AC 500 V	
④ 通 信	AC 1000 V	AC 1000 V	AC 1000 V	

瞬時停電の影響: 20 ms 以下の停電に対しては動作に影響なし (定格 DC 24 V)

停電時のデータ保護: 不揮発性メモリによるデータバックアップ

書き換え回数: 約 10¹² 回

データ記憶保持期間: 約 10 年

J-TI-A: 約 295 g (TI 部コネクタ除く)

J-TI-B: 約 250 g (TI 部コネクタ除く)

J-TI-C: 約 220 g (TI 部コネクタ除く)

5. 型式コード

■ 仕様コード一覧

J-TI-□-□□□-□□□* N / □
(1) (2) (3) (4) (5)

(1) タイプ

A: 16 チャンネル

B: 8 チャンネル

C: 8 チャンネル (スリムタイプ)

(2) 測定入力・レンジ (CH1～CH8)

□□□: 入力レンジコード表参照

(3) 測定入力・レンジ (CH9～CH16)

□□□: 入力レンジコード表参照

J-TI-B および J-TI-C (8 チャンネル)

の場合は「NNN」になります。

(4) 出力種類

N: なし (J-CVM 出力のみ)

(5) TI 部コネクタ

N: なし

C: TI 部コネクタ付き

入力レンジコード表

● 熱電対入力

種類	コード	レンジ
K	K09	0.0～400.0℃
	K10	0.0～800.0℃
	K11	0.0～1300.0℃
R	R10	0.0～1700.0℃

● 測温抵抗体入力

種類	コード	レンジ
Pt100	D40	0.0～400.0℃
	D41	0.0～600.0℃
	D42	0.0～800.0℃

■ イニシャルセットコード一覧

□ □ N N - □
(1) (2) (3)

(1) イベント 1 種類選択、(2) イベント 2 種類選択

N: イベントなし

A: 上限入力値

B: 下限入力値

C: 上下限偏差

D: 範囲内

E: 待機付き上限偏差

F: 待機付き下限偏差

G: 待機付き上下限偏差

H: 上限入力値

J: 下限入力値

K: 待機付き上限入力値

L: 待機付き下限入力値

Q: 再待機付き上限偏差

R: 再待機付き下限偏差

T: 再待機付き上下限偏差

(3) 通信プロトコル

1: RKC 通信 (ANSI X3.28-1976)

2: MODBUS

イニシャルセットコードを選択しなかった場合は、以下の仕様で出荷します。
イベント 1 種類: 待機付き上限偏差
イベント 2 種類: 待機付き下限偏差
通信プロトコル: MODBUS

MODBUS は Schneider Electric の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名や商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。 初 版: 2022 年 6 月 [IMQ00]

本 社 〒146-8515 東京都大田区久が原 5-16-6
TEL (03) 3751-8111 (代) FAX (03) 3754-3316 JUN. 2022

技術的なお問い合わせは、カスタマーサービス専用電話 TEL (03) 3755-6622 をご利用ください。